

コ ラ ム

㊦式英会話速修法

鉄鋼業界にも経済国際化の波はひたひたと押し寄せ、世界の共通語としての英語は、もはやジャッピー達の独占物ではなく一般のサラリーマンにも必需品となつてきた。幸いにもシリコンバレーの一角にあるスタンフォードの大学院で勉学する機会を得、アメリカでの生活を体験できた。そこで正式の語学留学ではないが、ちよつと休暇に現地で英会話を磨いてみようという方々のために、お金のかからない短期速修法をご紹介します。

米国は英語の国だとばかり思っていたら去年の秋、「英語をカリフォルニア州の公式言語にしよう」という提^{プロポジション}案が出されびつくりした。スペイン語や中国語などを日常使っている人達が結構いるのだ。そのためか各市の Adult school では英語を主たる言語としない (ESL) 人々のための無料の英語講座が開かれている。バロアルト市を例にとると、1日4時間、月曜から木曜まで初級、中級、上級の各レベルに応じて専門の先生が文法を中心とした実践的英会話とアメリカの文化や生活習慣などを親切に教えてくれる。一応登録は学期初めだが、途中での出入りは自由である。

大学の国際センター (外国人留学生会館) では、ボランティアによる英会話クラスや Free conversation のティーパーティーなどが曜日を決めて行われ、学生以外の参加も大歓迎だ。また、無料の個人教授もあつて、私が習っていたおばあさんなどレーガン大統領と同年だが、かくしやくとして大きな家に一人で住み、週

† ヤッピー (アメリカの専門職をもつた都会の青年たち) の日本版で、パソコンを使いこなし、英会話にも不自由しない 30~40 歳代の有能な社員。

に1回マンツーマンで学生に役立つ idiom を教えてくれた。この他、Conversation partner も紹介してくれる。日本語を勉強しているアメリカ人とペアになつて、コーヒーでも飲みながらお互いに自分の得意な言語を教え合うのも悪くはない。

少しレベルの高い人には、日曜日の朝、近くの教会へ行くことをお勧めする。聖書研究会ではかなり高度な語学知識と会話が学べるし、お説教や参会者の近況報告からは生き生きとした庶民の生活が伝わってくる。宗教団体主催の国際交流のための企画も多いので利用してみるのも良い。

現地で英語を学ぶ最大の利点は、生の英語に四六時中接することができる点である。言葉は生きているから、古い辞書より新しい週刊誌の方がずっと実用的には役に立つ。その最も効果的な方法は、アメリカ人の家にホームステイすることである。Give and take の精神で、和食、空手、日本画、日本の企業経営など何か提供できる特技があれば言うことはないが、自分の子供に国際感覚を身につけさせるため外国人を泊めたいというアメリカ人も少なくない。うまく探せば、観光ビザの期間内くらいの受入先は見つかるものだ。そうすれば一石二鳥で宿の心配はなくなるのだが、見つからない時は、モーターの長期滞在レートをうまく利用すればそれほどの負担にはならない。また、休暇旅行中アパート貸しますという広告も良く見かけるので、タイミングさえ合えば安く借りられる。

最近では日本でも格安の割引航空券が入手しやすくなった。西海岸なら十数万円+おみやげ代で現地で生の英語を勉強してくることも可能なのである。ひとつ気分一新、来年あたりこのアイディアをお試しになつてはいかが。
(東洋鋼鉄(株) 高橋紀之)

編集後記

「鉄と鋼」4月号をお届けします。

季節は春たけなわ、会員各位におかれましては、昨今の鉄鋼業をとりまく環境の変化およびハイテク時代への趨勢等々、例年にも倍して多忙な時期をお過ごしと想像いたします。

「鉄と鋼」誌もおかげさまで版を重ねること 73 巻。昭和 60 年春からは講演大会に新たに萌芽境界部門を設けるなど、拡大発展の道を歩みつつあります。

過ぐる 10 年前には世上はオイルショックで騒然となつた感がありましたが、我が国の産業はこれに耐え、克服してきたことは周知の事実であります。

昨今は円高不況対策が焦眉の急ですが、過去の例を

引くまでもなく、我が国の資質をもつてすればこれを乗り越えることは不可能ではないと考えますが、いかがでしょうか。いずれにしろ、未来へ向けての希望と自信をもつてこの新年度も各分野でいつそうの努力を致したいものです。

昨年度はその前年に対し投稿論文数は約 20% の増加となつております。政治経済など難しい問題は別にしても研究および技術の成果報告が増えているのは心強いものがあります。

我々編集担当者一同もできるだけのお手伝いをさせていただきますので、今後ともよろしく願います。
(S. S.)